

カカオ・チョコレート週刊ニュース 148号

2017年12月4日発行
株式会社立花商店 坂元麻美

1、市況の動き：ロンドン市場続落、3週間で200ポンド下落



		11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日	先週最高値	先週最低値	先週比	週内価格差
ロンドン先物	12月限月	1503	1487	1496	1444	1438	1552	1533	-49	19
	3月限月	1541	1526	1538	1495	1489	1591	1569	-50	22
ニューヨーク先物	12月限月									
	3月限月	2067	2049	2106	2049	2041	2124	2089	-18	35

2、ガーナ：The West African Mills Company (WAMCO)が再始動、カカオ製品の輸出も再開

ワムコはガーナココボードや同業の10社に対しての負債が積み重なり、カカオ豆の供給が止められて6000人ものリストラを行い2014年に工場を閉鎖した。しかしながら政府が介入し、ココボードに対してワムコへのカカオ豆の供給を求め500トンのカカオ豆がワムコに供給された。それによりワムコは再び稼働し始めた。

その見返りとしてワムコはカカオ豆の供給を停止した措置に対する訴訟を取り下げた。

-輸出に関して-

ワムコの副社長である Frank M. Bednar 氏は「工場の初めのステップはカカオマス製造に向けて、カカオ豆の前処理の工程をセットアップさせることだ。カカオマスの製造ラインは徐々に稼働し始め2018年の早い時期に完全に稼働再開ができるだろう。」と述べている。「ガーナ産カカオマスに絶大な信頼を持ち続けてくれているお客さんはたくさんいるので需要は伸びている。」と続けた。現在は2コンテナ分のカカオ製品の製造を終えて港へと出荷された。

-付加価値品への加工-

1960年代、ガーナはカカオ豆の輸出よりも国内で付加価値のある製品に加工することを目指していたがうまく機能しなかった。しかし近年になり再び政府やココボードはガーナ国内でのカカオ豆加工を呼びかけ投資を呼び込もうと働きかけた。またココボードは国内プロセッサーへのカカオ豆を輸出用の豆よりも割安で提供し、国内製造を促している。こうした流れの中でワムコは民間企業として設立された。ワムコは付加価値の高いカカオマス、カカオケーキ、ココアバターへの製造を目指したが輸出数量は伸びなかった。

-今後のワムコ-

Bednar氏によるとカカオマスの加工キャパシティーは年間12,000トン~15,000トンで、圧搾キャパシティーは年間15,000トン~20,000トンとのこと。またワムコ第2工場の年間の製造キャパシティーは25,000トンであり、今後7か月で製造量は伸びる見込みである。工場が軌道に乗った場合ガーナ国内の失業者の受け皿となることが期待される。

2、ロンドン先物市場 ポンド安の影響を受け2か月ぶりの安値

ロンドン先物価格はアイボリーの 카카오 収量の安心感とポンド高の影響を受け 2 か月ぶりの安値をつけた。11 月 29 日水曜日、イギリスと EU が将来の貿易協定に向けた合意をしたとのニュースを受けてポンドが 2 か月ぶりの高値をつけた。また悪天候による収量不足が懸念されていたアイボリーコーストの天候に良い兆しが見え、今シーズンの世界の 카카오 豆生産量は 15 万トンの供給過剰になるとの予測が出てきた。

ロンドンのあるディーラーは「耳に入る情報は全て 카카오 豆価格にはネガティブだ。ただ天候は良好だ。」と述べた。

ワールドカップ出場国の 카카오 豆

先週ワールドカップの組み合わせ抽選会が行われました。2018 年ワールドカップ出場国の中でペルー、コロンビア、ナイジェリア、パナマ等が 카카오 豆の生産国となっております。その中で、立花商店でも取り扱っている国はブラジルとコスタリカです。フレーバーをご紹介しますので、サンプルなどご要望がございましたら坂元までお問い合わせ下さいませ。

Brazil



ウッディ
タバコ



Costa Rica



イエローフルーツ、レッドベリー
キャラメル



カカオ先物価格が下落し
カカオマスのレシオやバター
のレシオが高くなっています。
バターは世界的に
第 3 四半期まで売り切れの
状況です。



《お問い合わせ先、配信希望または停止のご連絡先》

株式会社立花商店 東京支店 坂元

TEL 03-5785-3545 a-sakamoto@tachibana-grp.co.jp